

終 末  10 分	まとめる・ふりかえる  6 本時学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           二つのものをくらべて書く            ときにつかうことば            ・同じ～どちらとも            ・ちがう ～は…で、              ～は…です。         </div> 7 学習を振り返る。 <input type="checkbox"/> 自己評価を行う。 <input type="checkbox"/> 次時の予告をする。	<input type="checkbox"/> 文型を振り返り、比較の文章を書くときに大事なことを押さえる。  <input type="checkbox"/> 学習態度と内容理解の自己評価を行う。 <input type="checkbox"/> 次時は用紙に文章を書き、読んで発表することを伝える。
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4 板書計画

##### 【大型デジタルテレビ】

(発表ノート)

- ① 計画→比較表  
(デジタル教科書)
- ② 学習ページ  
(プレゼンテーション)
- ③ 大石さんの文章
- ④ にんじんだいこんの文章  
(発表ノート)
- ⑤ 教師；作業説明
- ⑥ 児童；作業中
- ⑦ 児童；完成作

##### 【黒板】

⑤  
二つのものをくらべて書くときにつかうことば  
・同じ～どちらとも…です。  
・ちがう ～は…で、  
  ～は…です。

くらべる文  
・同じ どちらとも ○ つ  
⇔  
・ちがう ～は…で、  
  ～は…です。

③ 当てはめて作る

② 読んで考える

① ひょうからえらぶ

⑥  
同じところ ちがうところ  
バナナときゅうりの同じところとちがうところをせい理して、つながりのある文しようを作ろう。

#### 5 自己評価の内容

- ① 文章例から大事なことを見つけることができたか。
- ② 学習したことを正しく説明することができたか。
- ③ キーワードを文型に当てはめて比較の文章を作ることができたか。

##### 【考察】

- タブレットPCを使うことで学習意欲が高まり、また、学習作業の効率化にもつながった。その結果、主体的に学習を進めることができた。
- パワーポイントを使って教科書にない文章例を提示することで、分かりやすい文章の書き方を考えさせることができた。また、同一内容で構成の異なる2種類の文章を示すことで、筆者の意図に沿う文章構成についても考えさせ、さらに先生方の意見を聞くことで、考えを広げさせることができた。
- 一人で学習しているので、ICT環境の強みを生かし、友達のかえや作文の情報を上手に取り込んで深い学びができるようにするとよい。

1 単元名 店ではたらく人々の仕事

2 目標

- 地域の人々の販売の仕事の様子や工夫について関心をもち、それらを意欲的に調べ、地域の販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 地域の人々の販売の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、地域の販売に携わっている人々の工夫を具体的に考え、表現することができる。  
(社会的な思考・判断・表現)
- 地域の人々の販売に見られる仕事の特色や国内外の他地域との関わりを見学、調査して具体的に調べるとともに、調べた過程や結果を白地図やワークシートなどにまとめることができる。  
(観察・資料活用の技能)
- 地域の販売の仕事は、販売に携わっている人々の工夫や他地域と関わりがあること、また自分たちの生活を支えていることを理解できる。  
(社会的事象への知識・理解)

3 指導観

- 本単元は、学習指導要領の内容(2)ア・イに基づいて構成されている。

(2) 地域に見られる生産や販売の仕事について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 知識・技能

(イ) 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。

(ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。

イ 思考力、判断力、表現力

(イ) 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。

本単元では、スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど日常生活に必要な商品を販売する人たちの仕事や工夫を調べることを通して、販売の仕事が、自分たち消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高めるよう工夫して行われていることが分かることを主なねらいとしている。

ここでは、児童に身近なスーパーマーケットの内、COOP小林店を主に取り上げる。東方校区には商店が少なく、多くの児童が自家用車で小林市内の商店へ買い物に出かけている。その中でもCOOP小林店は、東方校区に一番近く、20年以上続いている小林市に愛されたスーパーマーケットである。児童の家族や市内の多くの方々がこの店を利用しているため、児童の期待感や追究意欲を持続させながら、そこで働く人々の様子や工夫について具体的な見学や調査を行い、私たち消費者側の思いや願いと販売者側の工夫のつながりなどを捉えられると考える。

また、この単元は、生活科との接続、社会科との出会いという位置付けにある。児童に身近な商店の販売の仕事について追究・解決する活動を通して、第3学年に進級したばかりの児童の社会科に対する期待感を高めながら、主体的に追究したり、友達との学び合いを通して解決したりしていく楽しさを味わわせ、今後の社会科学学習に必要な基礎的な力を身に付けさせていきたい。

このような学習を通して、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目させ、販売に携わる人々の工夫を考えさせることは、児童が自分たちの住む小林市を深く理解し、地域社会に対する誇りと愛情を育むことにもつながり、本校の目指す子ども像の『進んで学びよく考える子ども』を目指す上でも大変意義深い。

- 本学級の児童(男子9名、女子7名、計16名)は、アンケートで社会科が好き・まあまあ好きと回答したのは16名と全児童であった。また、社会科の学習で楽しいと感じるのは、実際に見学・調査することが15名、資料を使って調べることが13名であった。教科書や副読本などの資料で調べる他に、実際に出かけて行って調べるなど具体的な活動に興味をもち、調べたことをもとにして考えたり表現したりすることにも意欲的に取り組む児童が増えつつある。一方で、考えたことを自分の言葉で表現したり、資料などから読み取ったりすることを苦手としている児童も数名見られる。

本学級の児童は、小林市内の大きなスーパーマーケットやコンビニエンスストアをよく利用している。また、家族と一緒に買い物に行った経験から、品揃えのよさや割引セール、駐車場の広さな

ど消費者側のニーズについては把握している児童もいる。

- そこで本単元の学習に当たっては、児童や家族がよく利用している小林市のスーパーマーケットを取り上げ、副読本や広告などの資料だけでなく、実際に、スーパーマーケットの見学や店員さん、お客さんへのインタビューなどを行い具体的に調べる活動を取り入れていく。

導入段階では、家での買い物調べをグラフや絵地図に表し他の店と比較させることで、スーパーマーケットを多く利用している結果を読み取らせていく。その際、どんな品物の買い物が一番多いかや、どの店での買い物が一番多いかなどの視点を与えながら丁寧な読み取りをさせていく。その結果から「なぜ、スーパーマーケットを利用する人が多いのだろう。」という疑問をもたせ、販売者がどのような工夫をしているのかという販売者側に視点をおいた小単元を貫く学習問題を設定させていく。学習問題の予想を話し合う際は、家の人スーパーマーケットによく行く理由を整理し消費者の願いを予想させるとともに、それに対する販売者の工夫の予想やその理由をスーパーマーケットの挿絵を用いながら品物の置き方や品数や種類、働く人の様子などの視点を与えながら話し合わせることで、それを実際に確かめたいという見学・調査への意欲を高めていく。

展開の段階では、導入段階の予想を確かめるために、スーパーマーケットの中の様子や働く人の様子を見学をしたり、店の人やお客さんへのインタビューなどの調査をしたりしていく。見学・調査では、品物の種類や数、値段、買い物のしやすさ、品物の品質など児童の予想を基にした調べる視点を設けることで、具体的に追究する手立てとしていく。

次に、スーパーマーケット見学で発見したことを整理し、見学で分かった販売者の工夫や努力と自分たちの予想とを比較して、気付いたことを説明する活動を行う。整理する際は、発見カードに分かったことやその取組の理由を書かせることで、全体の場での説明や整理をしやすくする。

さらに、スーパーマーケットで売られている品物の産地に着目しながら、県内だけでなく、国内外の色々な地域から品物を仕入れている理由について、見学で分かったことや品物の生産量、獲れる時期などの資料をもとに話し合い、店員さんのインタビューを通して追究できるようにしていく。また、販売者側の工夫や努力と消費者の願いを比較させることで、販売の仕事は消費者の多様な願いと結び付いていることに気付かせていく。

終末の段階では、もし、お店がなかったらわたしたちのくらしはどうかを考えさせ、お店は私たちの生活を支えていることにも気付かせた上で、学習問題のまとめを行う。次に、スーパーマーケット以外のコンビニエンスストアなどでの販売の工夫を調べ、スーパーマーケットでの工夫と比較させることで、それぞれの店のよさがあることを理解させていく。また最後に、それぞれの店の特徴を踏まえたパンフレット作りを行い、今後の買い物生活でいかせるようにつなげていく。

#### 4 学習指導計画（全14時間）

時間	主な学習内容及び学習活動	主な ICT 活用場面と目的	評価の観点
第1時	○ 地域にあるさまざまな店について話し合い、自分の家の買い物調べに興味をもつ。		【関】自分の地域にはさまざまな店があることに気づき、身近な人の買い物について意欲的に調べている。
第2時	○ 家の人買い物について調べたことを地図やグラフにまとめ、結果を読み取り、小単元を貫く学習問題を設定する。	○ 実物投影機を用いて、全体での読み取りや話し合いに活用する。	【技】買い物調べの結果を読み取って、絵地図やグラフに分かりやすくまとめている。
	スーパーマーケットでは、お客さんに多くの品物を売るために、どのようにふうをしているのだろう。		
第3時 第4時	○ 学習問題の答えを予想し、学習問題を追究するための学習計画を立てる。	○ 児童が予想したことを、実物投影機などを用いて全体で共有・整理する。	【思】スーパーマーケットの買い物客を集める工夫について予想し、分類して、それを確かめる

			ための見学計画を立てている。
第5時 第6時	○ スーパーマーケットを見学し、売り場の工夫について調べる。 ・商品の種類や数 ・値段 ・買い物のしやすさ ・品物の品質	○ スーパーマーケットの販売の仕方や店員さんの様子などをデジタルカメラを用いて記録する。	【技】スーパーマーケットの売り場でみつけたことや疑問に思ったことをメモしている。
第7時	○ スーパーマーケットで見学して発見したことを整理する。	○ タブレットを用いて、見学で記録したメモや写真をもとに、スーパーマーケットの工夫について整理し説明する。	【思】見学で得た事実と関連付けながら、店で工夫していることを説明している。
第8時	○ 見学で分かったスーパーマーケットの工夫や努力と、自分たちの予想を比較して、気付いたことを説明し合う。		
第9時	○ スーパーマーケットの品物の産地や仕入れの場所を調べる。	○ 電子黒板で、産地や仕入れの場所の分かる写真などを提示する。	【技】品物を通して、店が国内の他地域や外国とも結びついていることをまとめている。
第10時 (本時)	○ 品物をいろいろな場所から仕入れている理由を調べる。	○ タブレットを用いて、品物がいろいろな場所から仕入れている理由を話し合う。 ○ 電子黒板を用いて、インタビューのビデオを映す。	【技】色々な場所から品物を仕入れている理由について考え、キーワードを振り分けることができる。
第11時	○ 学習問題のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">スーパーマーケットでは、品数や品質、値段などお客さんの願いにこたえる工夫やど力をして、わたしたちの暮らしを支えていた。</div>		【関】スーパーマーケットの特色や考えたことをもとに、わたしたちの暮らしとのつながりについて調べている。
第12時	○ コンビニエンスストアやせんもん店での販売の工夫を調べる。	○ 写真や資料を電子黒板などで見ながら、それぞれの販売の工夫について話し合う。	【知】さまざまな店の特徴を理解している。
第13時	○ コンビニエンスストアやせんもん店とスーパーマーケットの販売の工夫を比較して、気づいたことを説明し合う。		
第14時	○ それぞれの店の特徴をパンフレットにまとめる。	○ 自分の考えに合う絵や写真を決め、タブレットでパンフレット作りをする。	【関】それぞれの店の特徴を踏まえてパンフレットを考えようとしている。

## 5 本時の目標

- スーパーマーケットが、品物をいろいろな場所から仕入れている理由について調べ、店側の工夫と消費者の願いを関係付けることができる。

6 学習指導過程 (□は児童生徒の ICT 活用場面、◎は教師の ICT 活用場面、◇は対話的な学びの場面、★は評価の場面)

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料・準備
導入 10分	<p>つなぐ・つかむ</p> <p>1 前時までの復習をする。</p> <p>2 本時の学習問題を立てる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">品物をいろいろな場所から仕入れているのは、なぜだろう。</p> <p>3 なぜ、いろいろな場所から運ばれているのか調べる見通しを立てる。</p> <p>○国内から (さくらんぼ山形県産、とうもろこし熊本県産) ○県内から (ブルーベリー・メロン小林産、とうもろこし・牛肉宮崎県産) ○外国から (バナナフィリピン産、牛肉アメリカ・オーストラリア産) ○方法…Yチャート・キーワード 前時までの資料・インタビュー</p>	<p>○ 品物の産地を表す地図やYチャートなどを視覚的に見せることで、前時までに行った学習を想起させやすくする。</p> <p>○ 前時の学習で気付いたことを想起させることで、児童に疑問をもたせ調べる意欲を高める。</p> <p>○ それぞれの場所や品物をしぼり、理由を明確にできるようにする。</p> <p>○ 前時までに個人で考えたキーワードと理由を言いながら、グループでキーワードを振り分けて解決していくことを確認する。</p>	<p>日本地図 世界地図 Yチャート</p>
展開 30分	<p>考える・学び合う</p> <p>4◇いろいろな場所から仕入れている理由を考える。</p> <p>(個人) →グループ→全体</p> <p>○国内から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県より多くとれるから</li> <li>・とれる時期がちがうから</li> <li>・おいしいから</li> </ul> <p>○県内から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しんせんだから</li> <li>・おいしいから</li> <li>・生産者が分かり安心だから</li> </ul> <p>○外国から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くとれるから</li> <li>・やすいから</li> <li>・おいしいから</li> <li>・日本より多くとれるから</li> <li>・とれる時期がちがうから</li> <li>・お客さんが選べる</li> <li>・旬のもの (品数が多い・安い)</li> </ul> <p>5◇店長さんのお話を聞く。(ビデオ)</p> <p>○国内から仕入れている理由</p>	<p>○ 前時までの個人の考えから、本時でのグループ、学級全体と広げていくことで、色々な場所から仕入れている理由が明確になるようにする。</p> <p>○ 前時の果物や野菜の生産量、国や都道府県別の旬の時期が分かる資料など掲示しておき想起させることで、理由を考えさせる手がかりとさせる。</p> <p>◎ それぞれのグループが考えたYチャートを比較し、同じところに着目しながら話し合わせるようにする。</p> <p>○ 2つの牛肉の値段の違いを読み取ったり、宮崎牛のおいしさなどを想起させたりし、消費者のニーズにより選択していることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 冬に旬の品物売り場の写真や値段を夏の時期と比較させることで、旬のものの品数や値段の違いに気付かせるようにする。</p> <p>★ 色々な場所から品物を仕入れている理由について考え、キーワードを振り分けることができる。 (観察・資料活用の技能)</p> <p>○ 店長さんの話を聞くことで、いろいろな場所から品物を仕入れている理由や、お店の人の工夫や努力を理</p>	<p>ワークシート タブレット Yチャート</p> <p>店長さんへのイン</p>

展 開  30 分	考 え る ・ 学 び 合 う	○県内から仕入れている理由 ○外国から仕入れている理由 ○旬なものを仕入れている理由	解できるようにする。	タビュー
		6◇店長さんのお話をもとに、いろいろな場所から仕入れている理由を確かめる。	○ 店長さんの話をもとに、グループで話し合ったYチャートを再度確かめさせ、色々な場所から運ばれてくる理由を整理させる。	Yチャート
終 末  5 分	ま と め る ・ ふ り か え る	7◇客のニーズに合わせて、いろいろな場所から品物を仕入れていることに気付く。 ○おいしいものがほしい ○いつでも手に入れたい ○しんせんなものがほしい ○やすいものがほしい	◎ 単元の初めに調査した、家の人や買い物をする人が店に対して望んでいることを想起させることで、お店の工夫とお客さんの願いがつながっていることに気付かせる。	お客さんの願い
		8 本時のまとめをする。 品物をいろいろな場所から仕入れてくるのは、お客さんのいろいろな願いにこたえたいからだ。	○ 本時の学習のキーワードをふりかえり、それらを使ってまとめさせるようにする。 ○ 本時の学習の取組を賞賛するとともに、次時の学習について予告し、意欲につなげる。	

#### 【考察】

- 前時に個人でじっくり考える時間を設けたり、タブレットPCのYチャートを用いたりしたことで、それぞれの考えを積極的に交流し合い、主体的に学ぼうとする姿が見られた。
- 班での考えを画面比較しながら共通点や相違点を話し合ったり、店の考えを映像資料で確かめたりできたことで、店側の工夫について理解を深めることができた。
- 班や全体で意見を交流し合う際に、児童の実体験を話したり、前時までに調べた内容のワークシートなどを指し示したりしながら交流し合えると、さらに深まりがあると思われた。

第4学年 保健体育科学習指導事例

1 育ちゆく体とわたし

2 本時の目標

- 思春期には、男女の体つきに変化が起こり、個人差があるものの、男女の特徴が現れることを理解し、これからの生活で気をつけたいことについて考えることができるようにする。

3 学習指導過程 (□は児童生徒の ICT 活用場面、◎は教師の ICT 活用場面、◇は対話的で深い学びの場面、★は評価の場面)

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点		資料・準備
		T1 (学級担任)	T2 (養護教諭)	
導入 5分	<p>つなぐ・つかむ</p> <p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思春期にあらわれる変化について考えよう。</span></p>	<p>◎ タブレットに前時の学習内容を投影する。</p> <p>○ 児童の発言を生かしてめあてを設定する。</p>	<p>○ 前時の拡大図を黒板に掲示する。</p> <p>○ めあてを黒板に板書する。</p>	<p>大型デジタルテレビ タブレット PC 拡大図 ワークシート</p>
展開 30分	<p>考える・学び合う</p> <p>3 思春期にあらわれる変化について考える。</p> <p>○ 1年生、6年生、大人の写真を見て、大人に近づくにつれて、男女の体つきにどんなちがいがあらわれるか気づいたことを発表する。</p> <p>○ 思春期にあらわれる変化について、タブレットの男の人と男の子、女の人と女の子の違いを比べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇ タブレットPCを使って、個人で考える。</p> <p>◇ タブレットPCを使って、ペアで意見交換をする。</p> <p>◇ タブレットPCを使って、意見交換をした結果を発表し、全体で意見交換をする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予想される児童の反応 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男の子 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひげが生える</li> <li>・ わき毛が生える</li> <li>・ 胸毛が生える</li> <li>・ 声が変わりする</li> <li>・ 肩はばが広がる</li> </ul> </li> <li>・ 女の子 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸が大きくなる</li> <li>・ わき毛が生える</li> <li>・ 腰まわりが大きくなる</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<p>◎ 前時に調べた思春期について意味を話しながら、タブレットの写真からわかる違いについて発表させる。</p> <p>◎ タブレットの使い方について説明する。</p> <p>○ ペアで意見交換をした結果を発表させる。</p>	<p>○ 児童の発言内容を黒板に板書する。</p> <p>○ 机間指導をしながら、児童のさまざまな考えを称賛する。</p> <p>○ 意見が出にくい内容は、男の先生や女の先生を想起するように助言する。</p> <p>○ 児童の発表に合わせ、意見を黒板に板書する。</p> <p>○ 児童の中で発言しにくいだろう性毛については、性器に生える毛のことを「性毛」と言うことをしっかりおさえる。</p>	<p>タブレット PC 大型デジタルテレビ 拡大図</p> <p>タブレット PC</p> <p>大型デジタルテレビ タブレット PC</p>

		<p>○ 思春期にあらわれる変化を知ったうえで、これからの生活で気をつけたいことを記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇ タブレットPCに気づいたことを個人で考える。</p> <p>◇ タブレットPCを使って、ペアで意見交換をする。</p> <p>◇ タブレットPCを使って、全体で意見交換をする。</p> </div> <p>○ プライベートゾーンについて知り、自分を大切にすることを理解する。</p>	<p>○ 前時の拡大図と合わせ、思春期にあらわれる変化について、これから気をつけたいことを記入させる。</p> <p>○ ペアで意見交換をした結果を発表させる。</p>	<p>○ 机間指導を行い、入力を支援する。</p> <p>○ 体の発育・発達の仕方は、人それぞれに個人差があることをしっかりおさえる。</p> <p>○ 児童の発言内容を黒板に板書する。</p> <p>○ プライベートゾーンについては、自分だけの大事などであることを説明する。</p>	<p>拡大図 タブレット PC</p> <p>大型デジタルテレビ タブレット PC</p> <p>男子の成長 女子の成長 男女の水着 の黒い色画 用紙</p>
終末 10 分	ま と め る ・ ふ り か え る	<p>4 本時の学習についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>思春期には、男女にからだの変化があり個人差がある。思いやりを持って接することができる。</p> </div> <p>5 振り返りを行う。</p> <p>○ 自己評価を行う。</p> <p>○ 発表する。</p> <p>6 次時の学習について知らせる。</p>	<p>★ 体の発育・発達の仕方は、人それぞれであり、個人差があることを理解できる。(ワークシート・発言)</p> <p>○ 本時の学習を振り返らせる。</p> <p>○ 次時は、体の働きや心の変化について学習することを知らせる。</p>	<p>○ 児童の意見をまとめ、黒板に板書する。</p> <p>○ 机間指導を行い、称賛する。</p> <p>○ 次時のワークシートを提示し、次時の興味を持たせる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>次時のワークシート 実物投影機</p>

### 【考察】

- 発問が精選されていて、児童がじっくり考えることができた。
- T1・T2の役割分担がしっかりできていた。
- タブレットに書き込ませたことで、児童の思考が深まっていた。
- 意見交換をするペアに変化があつてよかった。さらに、同性だけで集まって話してみると、意見が出てきやすかったのではないか。
- 提示した写真からは、「丸み」と「がっしり」がわかりにくかった。両方ともシルエットにして隠すと、男女の違いに目が向いたのではないか。
- もっと事前研究をして、どこに重きを置くか考えて時間配分をしたり、専門性を出したりするとよかった。



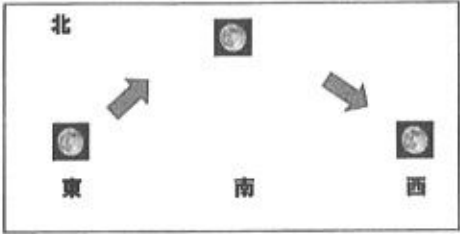
第4学年 理科学習指導事例

1 単元名 月や星

2 本時の目標

- 既習の内容や生活経験等をもとに月の動きを予想し、月の位置の調べ方について見通しをもつことができる。(観察・実験の技能)

3 学習指導過程 ( □は児童生徒のICT活用場面、◎は教師のICT活用場面、◇は対話的で深い学びの場面、★は評価の場面)

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料・準備
導入	<p>1 本時学習について話し合う。</p> <p>(1) 月について話し合い、月の名前を知る。</p> <p>(2) 月の位置の変化に目を向け、本時の学習問題をつかむ。</p> <p>月はどのように動いているのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月のことについて知っていることを出し合う中で、月の形(満月、半月、三日月)について知らせる。</li> <li>○ 2枚の月の写真を比べて分かることを考えさせ、月の場所(位置)高さの変化に着目させ、月の動きについて問題意識をもたせ、本時めあてを設定する。</li> </ul>	<p>電子黒板</p> <p>10分前後の月の写真</p>
展開	<p>2 月の動きを図に表す。(個人)</p> <p>月の動きをタブレットPCを使って、図に表す。</p>  <p>3 図に表した理由を話し合う。(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを発表し合う。</li> <li>◇ グループで話し合い、月の動きを理由をつけて発表できるようにする。</li> </ul> <p>4 全体で話し合う。</p> <p>グループで予想した月の動きをタブレットPCで発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 方位、月、→を動かして、月の動きの変化を図に表すことができるか確認する。(観察)</li> <li>○ 児童は前学年で、太陽の位置を調べる活動を通して、「太陽の位置が東の方から南の空を通過して西の方に移動すること」を学習しているので、同様の考え方で月の動きを予想すると思われるが、この段階では一人一人の児童の考えを大切にしながら予想させていく。</li> <li>○ 友達が表した月の動きと自分が表したものを比べ、同じところと違うところをはっきりさせ、グループとしての予想を理由をつけてまとめさせる。</li> <li>◎ 各グループの代表のPCの画面をモニターで提示し、発表させたり、そのように考えた理由を話し合わせたりする。</li> </ul>	<p>タブレットPC</p> <p>電子黒板 太陽の動きの写真</p> <p>電子黒板</p>
終末	<p>5 まとめ、ふりかえる。</p> <p>月も太陽と同じように、東の方からのぼり、時刻とともに、南の空をとおり、西の空へと動くだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入時提示した10分前後の月の写真、太陽の動きの写真をもとに、児童の考えを補足し、月の動きについての予想をまとめる。</li> <li>○ 太陽の動きは影の動きで調べたことを思い出させ、月は影ができないことから、どのように調べていけばよいか問いかけ、次時につなぐ。</li> </ul>	

【考察】

- 考えを自由に画面上に表したり加除修正したりできるといったICT(タブレット)のよさを生かし、太陽の動きについての考えをまとめたり考えを広く交流させたりすることができた。
- タブレットの自作教材の活用効果が認められることから、作成については労力を要するが前向きに考え自作ライブラリーとしてストックしておくといよい。

第5学年 家庭科学習指導事例

- 1 単元名  
食べて元気に
- 2 本時の目標  
○ 五大栄養素のはたらきと3つの食品のグループが分かり、食品を組みわせてとることの大切さを理解することができる。(知識・理解)
- 3 学習指導過程 (□は児童生徒のICT活用場面、◎は教師のICT活用場面、◇は対話的で深い学びの場面、★は評価の場面)

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	資料・準備
導入 ◎	<p>つなぐ・つかむ</p> <p>1 五大栄養素と3つの食品グループとの関連について振り返る。 ・ 炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン ・ 体内ではたらきで3つの食品グループに分けられる。</p> <p>2 本時のめあてを確認し、学習の見通しを立てる。</p> <p>給食のこんだてのひみつについて調べよう。</p> <p>・ 本日の給食の献立を知る。</p> <p>むぎごはん 豚肉の生姜焼き アイコトマト【地産地消；三松】 田舎汁 牛乳</p>	<p>◎ 栄養素のはたらきによる分類表を見せて、五大栄養素と3つの食品グループとの関連について確認させる。</p> <p>・ 給食の献立に使われている食品が、どの食品グループや栄養素に属するのか仕分け、献立がどのようにできているのかを考えると学習の流れを確認する。</p> <p>・ 地産地消の食材→社会科(食糧生産)との関連にもふれる。</p> <p>・ 実際の献立では分けてあるのが、食品がどれに属するのかを自分で調べさせるために、あえて分けて提示する。</p>	<p>タブレットPC</p> <p>大型デジタルテレビ</p> <p>本日の給食の献立表</p>
展開 ◎	<p>展 考 え る ・ 学 び 合 う</p> <p>3 個人で調べる。</p> <p>今日の給食の献立を見て、食品グループと栄養素別に仕分けをする。</p> <p>4 グループで交流する。</p> <p>◇ 自分の作成画面を他の友達に示しながら、説明する。</p> <p>5 全体で確認する。</p> <p>◇ タブレットを大型デジタルテレビに投影し、全体の前で発表する。</p> <p>6 献立のひみつについて発表する。</p>	<p>・ タブレット上に配付した食品名(またはイラスト)を表に仕分けするようにさせる。</p> <p>★ 献立の食品を分類表をもとに仕分けしようとしているか。(観察)</p> <p>・ 自分と友達との書き込みを比べ、それでよいのかをお互いに確認する。</p> <p>★ 自分の調べたことを分かりやすく伝えているか。</p> <p>・ 意図的指名をし、全体の前で発表させる。</p> <p>・ 調べた結果、献立はどのように考えられているのかに気付かせる。</p>	<p>タブレットPC</p> <p>大型デジタルテレビ</p>
終末 ⑤	<p>ま と め る ・ ふ り か え る</p> <p>7 本時のまとめをする。</p> <p>給食のこんだては、私たちのすこやかな成長のために、栄養のバランスを考えて作られている。</p> <p>8 振り返りを行う。 ・ 自己評価カードに記入する。</p> <p>9 次時の予告をする。</p>	<p>・ 栄養バランスのとれた食事はもちろんのこと、熱量(カロリー)にもふれながら、いろいろなことを考えた上で栄養士さんが献立を作られていることにも気付かせる。</p>	<p>大型デジタルテレビ</p> <p>献立表の一部</p> <p>自己評価カード</p>